

# 佐賀市 37 歴史探訪

## よう たい いん      こう でん じ ぼ しよ 陽泰院と高伝寺墓所

佐賀藩藩祖である鍋島直茂の名は、戦国武将として、また「日峯」さんとして皆さんよくご存じのことと思いますが、その直茂を陰で支えた直茂夫人についてはご存じでしょうか。今回は、直茂の正室である陽泰院についてご紹介します。

彼女は、龍造寺隆信の家臣で佐賀市南部を拠点とした石井氏の一門、石井常延いしいつねのぶの娘として生まれました。幼名を彦鶴姫ひこつるひめと言ひ、直茂に嫁いでは「藤の方」とも呼ばれています。出家してから「陽泰院」と号しました。

直茂と陽泰院との出会いは、直茂が龍造寺隆信とともに有馬氏との戦いに出陣の折、昼食をとるため立ち寄った石井氏の屋敷で、前夫を神代氏との戦いで亡くし実家に戻っていた陽泰院の働きぶりを見て見初めたのがきっかけといわれています。その時のことを、『葉隠』（聞書第三）には「直茂公御覧なされ、あの様に働きたる女房持ち度しと思召され、その後、お通いなされ候」と書かれています。

この頃、直茂は32歳で、陽泰院は29歳でした。

その後、直茂が没する元和4年(1618年)まで約50年間の夫婦生活をおくり、直茂との間に佐賀藩初代藩主である鍋島勝茂をはじめ6人の子をもうけ、寛永6年(1629年)に89歳で没しています。陽泰院は、温厚でやさしい人柄であったようで、直茂とともに家臣の命乞いを行ったり、寒い夜に囚人に粥を振舞ったなどというエピソードも残っているようです。

陽泰院のお墓は、鍋島家の菩提寺である高伝寺にあり、直茂の墓石に寄り添うように建っています。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りになり、直茂夫妻やその人柄に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

### 一口メモ

直茂と陽泰院の出会いの舞台となった石井氏の屋敷が佐賀市南部のどこにあったのか定かではありませんが、陽泰院の父である石井常延の菩提寺が本庄町大字鹿子の常照院であることなどを考えると、このあたりにあったのかもしれませんが。



▲高伝寺



▲鍋島直茂と陽泰院の墓



▲常照院

